



共に学ぶ

学校支援ボランティアセンター (SSVC)

第30号 (年2回発行)

狭山市学校支援ボランティアセンター
＜事務所＞

狭山市狭山台1-21

狭山元気プラザ内A棟3F

☎/Fax 04-2927-1395

E-mail: sayama-ssvc@bd.wakwak.com

電話受付: 月・水・金曜日午後1時~4時迄

予測困難な社会の中で

平素より、学校支援ボランティアセンターの皆様におかれましては、市内小中学校への学習支援を通じて多大なるご貢献をいただいておりますことに、心より感謝を申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症により、皆様の活動が大きな影響を受ける状況の中にあつた際も、学校に対してでき得る支援を工夫して行っていただいたことについて、改めて感謝申し上げます。

さて、現在、狭山市教育委員会では、令和3年度から令和7年度までを計画期間とする「第3次狭山市教育振興基本計画」に基づき、狭山市の教育に関する大綱のもと、6つの基本目標を設定し、21の施策と、これに係る90の取り組みを推進しているところであります。

コロナ禍において、生涯学習の環境が大きく変化したことを踏まえ、with コロナ、after コロナを

狭山市教育委員会 生涯学習部 部長 金子 等

念頭に、各施策を円滑に進めていくに当たっては、今まで以上に、学校と家庭そして地域が連携していくことの必要性を強く感じているところであります。

特に、学校においては、国のGIGAスクール構想により、ICTを積極的に活用した学習を進めているところでありますが、こうした新たな学習環境への対応を円滑に進めていくに当たっては、皆様の経験と熱意あるご支援を必要とするところであります。

学校支援ボランティアセンターの皆様におかれましては、今後も引き続き、学校への支援活動についてご協力をよろしくお願い申し上げます。



これからのSSVC

SSVCはこの3月末で設立以来満15年となり、子どもの成長に例えれば中学校を卒業する年齢です。この15年間でSSVCを取り巻く環境は大きく変わりました。

設立時点では、定年退職した元気な人たちの能力を地域にどう活かすかが大きなテーマで、新しいメンバーが続々と加入することを前提に組織づくりが進められてきましたが、ここ数年で就業環境は大きく様変わりしました。現在は政府が70歳までの雇用継続を推奨していますし、年金制度への不安感もあって、身体が動く間はずっと稼ぎ続けたいと考える人が多くなっているように見受けられます。

SSVC 事務局長 山田 恵一

一方、設立時には無かった「学校応援団」を更に発展させた「地域学校協働本部」が動き始めようとしていますので、SSVCが学校支援を一手に引き受けるという形は意味を失いつつあり、存立の原点を見直すべき時期が来ています。

これまで目指して来た「新陳代謝をしながら持続性のある大きな組織」から「変化に対応できる小さな組織」への転身を図る必要があると考えており、構成メンバーについては、仕事を持っている人にも参加してもらえるように活動の仕組みを工夫する必要があると思います。皆さんの知恵を結集してSSVCを狭山市独自の仕組みとして進化させるべく、関係各位のご協力・ご支援をお願いします。

学校支援 (SSVC) の生い立ち ①

～～今までを振り返り、エピソードや今後の展望などシリーズで掲載予定～～

SSVC同窓会（さやま市民大学同窓会の前身）が平成14年（2002）に産声をあげ地域の発展に寄与する事を目的に活動をはじめ、中でも学校現場が抱える深刻な問題に対し、少しでもお役に立つ事は何かと。この会員の数名が学校支援活動を目指して動き始めました。校長会や学校を訪問して、学校支援の目的を説明し先生方の声を聞くなどして調査を行いました。しかし結果として、学校と地域との壁が高く十分な理解を得るに至りませんでした。そのような中、市内の一つの中学校が文科省の「学力向上フロンティアスクール事業」の指定校となりました。この事業は、児童生徒一人一人の理解習熟度に応じた指導を行うもので、きめ細やかな指導が求められ、地域住民の参画による授業等での学習補助として同窓会員による学校支援が始りました。私も平成17年より、このモデル校である中学校3年生の選択授業、毎週木曜日午前中の英語支援を始めました。この選択授業は、習熟度別にチャレンジとスキルクラスに分かれ、ボランティアによって、とても入り易い授業形態でした。学校支援は、学校現場の受け入れ窓口がとても重要で、通常教頭又は教務主任が担当されます。この中学校で地域住民の受け入れを検討されたまだ少ない女性管理職S教頭の存

前SSVCセンター長 諸井 寿夫

在がとても大きかったと思います。S教頭は当時を以下のように回顧されています。「平成14年に中学校に赴任し、とんでもない学校に来てしまったと・・・、昇降口にたむろ、授業エスケープ、体育館の裏でタバコ、授業に出ていてもグニャと寝ている。そこで目標を『生徒一人一人がわかる授業の展開』と定めこの達成には教師一人ではとても難しく、そこで皆さんに支援をお願いした。この成果は確実に学力テストや受験に現れたとのこと。教員も刺激となり、自分の教科の勉強を一生懸命するようになり、外部からも刺激があると心地よい緊張感が子供たちにも伝わりお互いに良い関係になる」このような経過を知り、学校支援の初期フェーズに大変なご協力を頂いたのだと、改めてS教頭に感謝です。これが本市における学校支援活動の大きな第一歩となり、ボランティア派遣の組織的な取り組みに発展していきました。



（次号予定 どうしてセンター組織（SSVC）が必要だったか ②）

狭山台中 自己学習ノート確認支援

1学期始めに校長先生からお話しを頂き、自己学習ノートの確認支援を行っています。

感染予防のために、従来のように生徒たちと顔を合わせての支援はできませんが、1年生6学級分の確認と2年生の週末テストの採点なので、これまでに狭山台中の支援に参加された方だけでは手が足りず、SSVCにメールアドレスを登録されている方全員に声をかけたところ、23名の方が参加して下さり、毎日4or5名で支援をする計画を立てることができました。

SSVCの控室に6名分の席と消毒用具一式を用意して頂いて5月10日から支援が始まり、2学期と3学期も始業式の翌日から継続して支援を行っています。

狭山台中学校コーディネータ 山田 恵一

生徒たちと直接顔を合わせることはできませんが、ノートには個性が出ているので、少しでも生徒のやる気が向上するように配慮しながら赤ペンでコメントを記入して「交換日記」のような気分で久々の支援を楽しんでいます。



校長先生 こんにちは **29**

いつでも笑顔・本気、いつでも挑戦・感謝、チーム堀兼小！

堀兼小学校長 福岡 直人

日頃よりSSVCの皆様、保護者・地域の皆様には本校の教育活動に深いご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

令和2年4月より147年の歴史あるこの堀兼小学校第23代校長を拝命し、2年目迎えました。本校の歴史は古く、明治7年（1874年）5月10日に当時の堀兼村光英寺に「堀兼学校」が置かれたのが本校の始まりです。その後、いくつかの学校名の変更を経て、昭和22年（1947年）4月1日に現在の学校制度による「堀兼小学校」となりました。さらに町村合併により狭山市となり、昭和29年（1954年）7月1日に現在の校名である「狭山市立堀兼小学校」となりました。今年で開校147年を迎えています。

さて、今年度もコロナ禍ではありますが、SSVCの皆様や保護者・地域の皆様から温かく見守られ、本校教職員は「チーム堀兼小」として、目指す学校像「地域とともに、児童が成長を実感でき、笑顔あふれる堀兼小学校」を具現化するために日々邁進しており

ます。児童も教職員の指導と期待に応えようと直向きで好奇心旺盛な眼差しで、「本気」と「笑顔」、「挑戦」と「感謝」で勉強や運動、諸活動に取り組んでいます。最近では新型コロナウイルス感染症

の感染者数も減少し、明るい兆しが見えてきていますが、『治にいて乱を忘れず』いかなる変事にあおうとも、常にそれに対処してゆけるように、かねて平時から備えつつ、全校児童249名の健やかな成長に向け、無限の可能性を秘めた堀っ子の「本気」を見届け、「笑顔」を守るために今後も本校教育活動への皆様のご理解とご協力を重ねてお願いいたします。



コロナ禍における堀兼中学校の学習支援

コロナ禍以前の堀中の学習支援の実情は、1年の数学・英語の授業支援（週1回支援者各1名）で、2年にも拡大しようかという話があった矢先、令和2年3月突然の全国一斉休校で中断。

6月に学校は再開したが、ボランティア活動は自粛が要請され、やむなく活動は休止したままだった。学校側からは「教師が使用しているフェイスシールドをお貸しするのでマスクを併用し是非授業支援を行ってほしい」と強く要望された。我々も、対面の授業支援が、最も効果的な支援と思っている。しかし、支援者の健康・他校の動き・本部の意向などから、残念ながら遠慮させていただいた。令和3年度（2021）から生徒とは隔絶された別室で、英単語・熟語の宿題（小テスト）の○つけを依頼され2学期から（具体的

堀兼中学校コーディネータ 松永 圭市

には緊急事態宣言が解除された10月から）週1回支援者3名で行っている。何かとお忙しい先生方の負担を少しでも軽くできればという思いである。「わかる 楽しさ できる喜び」を一人でも多くの子供たちに味わってもらおうと支援している我々にとっては、対面支援が一日も早くできることを心待ちにしている。



柏原小学校6年生 総合学習授業支援「柏原の歴史、文化にふれよう」

前任柏原小学校コーディネータ井口 孝之さんの時代から、本校6年生の総合学習授業の支援として毎年恒例で行われているものです。昨年度はコロナ禍で中止を余儀なくされましたが、本年度は7月2日に復活実施となりました。

授業の狙い：自分たちが暮らす柏原の文化、歴史に関心を持ち、実地調査やインターネット検索、地域の方への取材等の活動を通して柏原について理解を深めるとともに愛着を持つこと。

実施までの流れ：①学校からの支援要請⇒②柏原小学校コーディネータへ⇒③「狭山歴史クラブ」及び「狭山歴史ガイドの会」へというルートで実施されます。②⇒③へは③の団体に所属している 川田 みな子さん(新狭山小コーディネータでもある)を窓口にしてお願いしております。

学習の内容：

1. まず歴史クラブ 井口 孝之さん(前本校コーディネータ)が6年生児童全体に対して、柏原の縄文時代から中世、江戸時代頃までの歴史の概要を産業、生活状況なども含めて、「ふるさと歴史マップ」や分かり易い「柏原地区の歴史的歩み」の資料で解説。
2. その後、児童を柏原内7カ所の史跡(下記)をそれぞれの説明するコーナーにあわせ7つのグループに分け、ガイドの会担当者から写真・図などを交えた解説・お話を聞く というもの。各箇所約10分、質問等約10分(グループ交代し2回実施)

柏原小学校コーディネータ 占部 洋一

(1)上宿の庚申塔と下宿の馬頭観音、(2)西浄寺のねずみの図、大六天の碑・大山提灯、(3)城山砦跡、(4)常楽寺の七観音と大水正金の槍および五百年碑、(5)永代寺の本尊 不動明王および霊場巡拝供養塔、(6)影隠し地藏と円光寺のお地藏さん、(7)白鬚神社の 御正体、子返し図、韋駄天の図など(実物持参 参観)

3. 最後に集合して纏めの会

*児童はひとつひとつ頷きながらメモをとるなどしっかりと聞いていました。

後日児童達は、実際の各史跡へ行って自分の目で実地研修を行うことになっています。

*今回の重要課題は感染対策でした。そのため3密防止策について川田さんが6年生担任の先生方と会場(体育館)の実地検分を実施。支援者(解説者)と児童との間にアクリル板の設置、各説明コーナーでは従来の床座りから椅子席にして児童の間隔をあける、説明コーナー2ヶ所を体育館2階に移し説明コーナー7ヶ所の間隔を大きくあける、体育館の窓もドアも開け放しにするなど、学校側にいろいろと工夫をしていただきました。



コロナ禍下の支援実績

2019年度末からの一斉臨時休校に始まり、いろいろな制限がかかった中で、SSVCも感染の恐れがあるため、子どもたちと顔を合わせた学習支援はできない状況でした。しかし、顔を合わせない支援、例えば家庭学習ノートの確認や小テストの丸付けなどを提案し、それを受け入れてもらえる学校で支援ができるようになりました。

これまでの年間9,000時間前後の支援時間と比較すると、微々たる数値ではありますが、少しずつ増えてきました。支援者は、九九暗唱のときにはビニール越し、あるいは校庭で行って感染リスクを抑える工夫を施したり、学習ノートには励ましの一言を添えたり、

情報集約グループ 角田 ふで子

制限のある状況ですが、いろいろ考えながら支援を行いました。

	1学期	夏休み	2学期	3学期	合計
2020年度	6時間	-	723時間	538時間	1267時間
	小学校1校		小学校2校 中学校1校	小学校3校 中学校1校	
2021年度	1239時間	70時間	1231時間		
	小学校3校 中学校3校	小学校1校 中学校1校	小学校5校 中学校3校		

編集後記：コロナ禍下で対面での学習支援は、まだ、かなわない状況です。が、今回いろんな工夫をしながらの活動の報告をすることができました。いろんな知恵を出すことでこれまで以上に支援の幅が広がったと思います。Y.K